

2024/12/13 開催 いけんひろば
教育にかかるお金の支援があることを知ってもらうには？
いけんのまとめ オンライン回

【オンライン】1 班（中学生 4 名）	2
【オンライン】2 班（中学生 4 名）	5
【オンライン】3 班（高校生年代 3 名）	9
【オンライン】4 班（大学生・社会人年代 4 名）	14
【オンライン】5 班（社会人年代 3 名）	18
参加者アンケートで寄せられた意見.....	22

【オンライン】1 班（中学生 4 名）

1. みなさんがこれまでを振り返って、これまで説明した支援のうち、聞いたことがあるものや知っていたものはありますか？また、その支援について何を通じて知りましたか？

○これまで説明した支援を聞いたことがありますか？

- 国の支援や奨学金については、学校で先生方が話してくれる機会があるので聞いたことがある。
- 中学校に入学したとき、説明会で「就学支援金」についてプリントをもらった。家族から聞いた話だが、家族が参加する保護者会で説明を受けた。「就学支援金を受けることは恥ずかしいことではない」という説明だった。ほかにも、「自分の中学校では 10%以上の人が就学支援金を受けている」と家族から聞いたことがある。
- あんまり知らなかった。
 - 自分もあまり知らなかった。
- どちらかという、生徒たちが説明を聞く機会よりも保護者が聞く機会が多いと思う。

2. これから、保護者の方や、中学生～大学生のみなさんに支援のことを知ってもらうためには、どのような方法・タイミングでお知らせするのがよいと思いますか？

- 紙で、学期が始まるごとにお知らせしたほうがいい。
- 学級が上がるごととか、進路選択の時とか、何回もやったほうがいい。入学したときだけだと覚えていないと思う。進路選択の時だと少し遅い気もするので、学年が上がるごとのほうがいい。
- テレビやインターネットを使って、卒業入学するときに知らせてほしい。
- 学期末など、一学期ごとに教えたらいい。
- このような支援があるというのはできるだけ早めに知らせたほうがいい。支援が受けられないと思っていたことでそもそも行く学校をあきらめてしまったら意味がない。なるべく早めに知ることで目指せる学校の幅を増やすことが大事だと思う。
- いま学校では保護者宛のプリントを渡しても持って帰らない生徒がいる。その人のためにプリントのデータを流せるアプリがあるので、そこで週 1 回・月 1 回などの頻度で情報を流せば、プリントが保護者の手に渡らなくても情報を届けることができる。

3. 小学校～大学卒業までの支援を、1 枚でわかるようにしたチラシを作ろうと考えています。チラシの案を見ながら、どのように変えたらわかりやすくなるか、教えてください。

○興味を持ってもらうには、どこを変えたらいいですか？

- このチラシを見てまず思ったのは、配り方にもよるが、学校でもらったら信憑性が高いが、街でもらったら「お金がもらえます」は詐欺に見えるということである。そのため、発行元を示したほうが良い。

- 「詐欺に見える」という意見に共感した。ほかには、チラシ表面のイラストの画像について、「ものすごく助かった」みたいなイメージの画像を入れたり、助かった例を示したりするとよいのではないか。
- 小学生が対象である場合、文字ばかりでは分かりづらい。例えば、「家計が急変」というところに、胸をなでおろしているイラストを入れるのはどうか。イラストには吹き出しを添えて「どんなことが助かったのか」が説明されているとよい。
- チラシ表面の①②のところで、大学・専門学校・高校・中学とそれぞれ制度が紹介されているが、その制度名にアンダーラインを引くのが良いのではないか。
- チラシの表面「お金がもらえます」の上に、担当の部署の名前を書いて信憑性を上げたほうが良い。
- チラシ表面の①②と書いているところで、奨学金の制度名を言われても、何を言われているかわからないというか、ピンとこない。制度が示す内容にもう少し触れたほうが良いのではないか。例えば、①について「対象内であれば、授業料や入学金や生活費が受けられます」と文章で補足するのが良いのではないか。
- チラシには「支援を受けるには申請が必要です」とあるが、これはこどもが申し込むこともできるのか。こどもだけで申し込めるのか、保護者が申し込むのか、誰が申し込むのかを書いたほうが良い。

○特に、生活が苦しい方、文字が多いと忙しくて読まなかった方、難しい日本語が読みにくい方や、支援があることを調べることが難しい方々に、届けるにはどうしたらよいでしょうか？また、学校でこのチラシをもらったら支援を受けようと思いますか？

- 自分はこのチラシを見ない。学校でもらったとしても、「こんなのあるんだ」とななめ読みして終わると思う。
- チラシ裏面について、ちょっと文字が多いと感じる。必要なこととはわかるが、文字が多いのでもう少し少なくしてほしい。
- まずこのプリントが配られたときに読むか読まないかで迷う。新聞で見出しが大事なように、「あなたも支援の対象かも」と、もう少し関心を惹き付けるような文言だいたいと思う。
- 例えば、小学校のランドセルが送られてくると「見える化」しているから実感がわくが、奨学金だと親が授業料を負担してくれるので、こどもからはお金が見えづらく、支援を受けている実感がわきにくい。そのため、このチラシを見たからと言っても、なかなか読もうとは思わない。
- このような奨学金制度があることは、こどものうちから知っておいたほうが良い。ただ、そもそも自分が対象になるか分からないので見づらいと思う。
- 見ると思う。もう少しパンフレット型のようになっていたら、中身が気になるので、自分は見ると思う。
- 「パンフレット型」は外側がシンプルで中が詳しくなっているといいと思う。
- パンフレットのどこかに「おうちでも家族の人と読んでみよう」と書くといいのではないか。
- もう少し下線を引いて強調したほうが良い。支援金がどのくらいもらえるのか、もう少し明確に書くといい。パンフレットの表紙に「最大これくらいもらえるよ」と吹き出しで書いたら良いと思う。
- 裏面には具体的な金額が書かれているが、表面にも大雑把な金額や、「最大どのくらいもらえる」など書いたほうが良い。

○レイアウトについて、どのように感じますか？

- 言葉遣いが分かりやすいかどうかという点については、ですます調で良いと感じる。小学生は見る人が少ないと思うのでこのままでよい。
- 保護者に渡せるかどうかという点については、自分はこのような紙が来たらなるべく保護者に渡そうと思っている。というのも、授業料や制服以外にも、塾の授業料や、電車通学するなら交通費がかかり、できるだけ支援を受けたいのでこの紙を渡したい。
- 学校の授業料やそれ以外でも、塾など色々なところでお金がかかる。もらえる奨学金とかがあるなら、もらうのが一番いいので、奨学金に関するチラシなどは保護者に渡す。しかし、みんながみんな保護者に渡せるかと思ったらそうは思わない。学校側から「奨学金ありますよ」と提示しても、保護者とお金の話をすることを強要することができないため、こどもが申請したいと思っても保護者に申請してもらえないことがあるのが困った状況だと思う。
- 公立と私立の高校の授業料の差が大きい。公立高校が人気で倍率が高いがゆえに私立高校を受験せざるを得ない状況が、授業料の差を生んでいるのではないかな。
- 「チラシを家族に見せられるか」という質問があったが、自分はこの紙を家族に見せられる。自分は受験生だが、塾の授業料が莫大だし、私立は授業料以外にもお金がかかる。「私立なんてお金がかかるから駄目だよ」といわれるのが怖くて進学希望を言えない人はいると思う。
- 「保護者と教育に関わるお金の話ができるか」について、話はあると思うが、内容的に結構難しい。飽きるといふのがあると思う。
- チラシの裏面は小学校3年生くらいまでが見るには文字が多すぎると思う。「もらえるお金はこれくらいだよ」とお札のイラストの量で示したらいいと思う。低学年は1から10までしか聞いたことがないので、大きな数字を並べられてもわからない。なので、自分で見て、読んでわかるようにしたらいいと思う。
- 「外国にルーツがある方にも伝える」という観点があった。そのためには言語を変えてチラシを作るというのが必要だが、そのあとの手続きをするのが難しいと思う。手続きの仕方をグローバル対応できれば、支援を受ける人にとって良いと思う。

以上

【オンライン】2 班（中学生 4 名）

1. みなさんがこれまでを振り返って、これまで説明した支援のうち、聞いたことがあるものや知っていたものはありますか？また、その支援について何を通じて知りましたか？

- 高校進学について話す三者面談で、現在住んでいる都道府県の私立高校の授業料無償化についての資料を学校の先生から渡された。自分の家ならこれくらいの支援金をもらえるということを話し合った。授業料無償化については、三者面談の前からニュースでも報道されていたため少し知っていた。みんなに対して周知されるというよりは個人に対して周知されている。チャランが配られたことはあるかもしれない。通っている学校の同級生はみんな知っていると思う。
- 大学や高校に入学するときに、奨学金制度があると聞いたことある。奨学金制度は、家計が厳しい人にお金が貸与されて、後から返すものだと思う。奨学金制度を知ったきっかけは、大学に通う兄がいて、お母さんから聞いたことである。学校では、私立に進学するか先生と話したときに少しだけ聞いたことがある。友達と支援について話したことはない。
- 「こどもが 3 人いると、一番下のこどもが大学生のときにお金の補助がもらえる」と入試対策のために通っている塾の先生から聞いたことがある。制度について知っていると楽なのではないかということで教えてくれた。学校で教えてもらったことは全くない。今回のいけんひろばで初めて知った支援制度もある。

2. これから、保護者の方や、中学生～大学生のみなさんに支援のことを知ってもらうためには、どのような方法・タイミングでお知らせするのがよいと思いますか？

- 進路説明のときに先生たちから教えてもらう機会があると良いと思う。奨学金制度のことがまとめた紙を配ったり、電子黒板に見やすいプレゼンテーションを投影したりしながら説明してくれると良いと思う。どういう条件があると奨学金をもらえるのか、どういう制度なのかなど、細かい説明があると良いと思う。
- 先生から言ってもらえるのも良いと思う一方で、自分で調べられるように、ひとつのサイトに情報がまとまっていると分かりやすいと思う。奨学金制度以外の、私立高校の特待生制度や、一定の要件でもらえる学習支援金も助かる制度だと思うので、それらの情報も含めて網羅されたサイトがあると良いと思う。サイトには、住んでいる場所を入れたら一括で情報が表示されるような絞り込み機能があると良いと思う。そのサイトをみんなに知ってもらうためには、進路を考えるときに、学校の先生から「こういうサイトがあるので見てください」と説明し、二次元コードからアクセスできるようにしたら良いと思う。
 - みんなにそのサイトへアクセスしてもらいたかったら、授業で時間を取れば良いと思う。
 - サイトを紹介されても面倒に感じる人も多いと思う。授業で時間を取っても興味がない人もいると思うので、興味を持つような話から入ることができれば多くの人に知ってもらうことができると思う。どのような話なら興味を持つのかについてだが、お金はみんな好きなので、「今は払っているお金がもらえるよ」のようにして、お金の吸い寄せられるようにしたら良いと思う。
 - 困っていたらサイトにアクセスすると思うが、「困っていないからいいや」と思ったらサイトにはなかなかアクセスしない。授業でやるのは良い方法だと思った。「自分の進路にかかるお金を調べてみよう！」と

いう授業をして、自分の進路にどれだけお金がかかるかが分かったらびっくりすると思う。自分自身、高校受験をすることになって、どれだけお金がかかるかや、私立高校の授業料無償化という制度があっても高校に通うにはお金がかかることを知った。教育を受けるために必要な金額の大きさを知ったら興味を持つと思う。

- 中学 2 年生くらいのときに、教育にかかるお金のことについて生徒自身で情報をまとめて生徒から保護者に伝えたと、保護者が一番関心を持ちやすいと思う。高校進学直前の進路相談のときだと「今言うの？」となると思うので中学 2 年生くらいのときが良いと思う。どれくらいお金がかかるかを改めて数値化することで分かりやすくなる。制度があることを知ってもらい、興味を持ってもらいたい。
 - 保護者と話すのであれば家族全体で計画的に進路をスムーズに話し合えると思うが、先生に「話しなさい」と言われても自分は少し難しいと思う。自分でうまく伝えられるか分からない。自分が通う学校では、保護者向けの進路説明会がある。学校の先生から「進路に向けて、今のタイミングでこんなことをしてください」ということや奨学金制度の説明があるので、そのタイミングで伝えたほうが効果的だと思う。
- 自分が通う学校では、生徒向けの進路説明会がある。その進路説明会以外にも、保護者と生徒に向けて奨学金などのお金の制度を説明してくれる会があると良いと思う。中学 1 年生は入学して時間が経っていないため、高校まで時間がある中学 2 年生で説明があると良いと思う。
- 思春期で 1 対 1 で保護者と話すのが難しい人のためには、学年やクラス単位で保護者に学校に来てもらい、体育館で説明会をすると良いと思う。保護者と直接話さないで済むと思う。

3. 小学校～大学卒業までの支援を、1 枚でわかるようにしたチラシを作ろうと考えています。チラシの案を見ながら、どのように変えたらわかりやすくなるか、教えてください。

- この場では細かく見ているが、一人で出かけているときにチラシがあっても細かくは見ないと思う。奨学金をもらうには色んな条件をクリアしないといけないというイメージがあり、「自分はクリアしない」と思ってしまふ。
- 表面は整理されていて分かりやすいが、裏面は色んな情報があって、一気にこんなに言われても分からないと思った。黒色だけで書かれているので、もっと目立つ色を使った方が良い。
- 表面の見出しにある「お金がもらえます！」という言葉は興味を引く言葉だが、チラシの半ばに書いてある矢印にも色がついているため、最初に「お金」という言葉に目が行かないのではないかと思った。
- ぱっと見では、カラフルで見やすいと思った。「お金がもらえます！」という言葉は、全体的に見たらそこまで主張が強くないけど、弱すぎることもないと思う。一方で、裏面は色々な情報が書いてあって「なんだこりゃ」と思った。全員が読むかと言うと、興味ある人は読むし、興味ない人は読まない。
- 奨学金制度を調べてもらうためには、「自分も対象に当てはまっているかもしれない」という当事者意識が必要だと思う。奨学金をもらえる基準ほど生活には困っていないが、お金かかることに困っている人が多いと思う。奨学金をもらえる基準がしっかり書かれていれば「私も当てはまっているかも」と思って読んでもらえるかもしれない。

- 「教育にかかるお金がもらえます！」という言葉について、「どうせ当てはまっていないだろう」と思うしまうイメージがあるので、そこまでじっくり目を通さないかもしれない。
- 奨学金やお金を借りられる制度を知らなかったら、自分に関係ないと思って素通りすると思う。素通りされないためには、「どうですか？」と大きく見出しを付けて、見た人が「自分にも関係あるかもしれない」と思うようにすると良いと思う。
- 自分はお金に困っていないので、「自分はいいかな」という意識があり、読まないと思う。お金をもらうための条件はもちろんあるが、「自分たちは困っていない」と思っている対象者になる場合があると思う。対象であることに気づいてもらうためには、どういう人が対象なのかが書いてあると良いと思う。いまは見出しに「教育にかかるお金がもらえます！」と書いてあるが、あまりにも抽象的なので自分には関係ないと思うしまう。
- 日本語を読むのが苦手な人に理解してもらうためには、他の言語のバージョンを作るのも一案だと思う。日本語を読むのが苦手なのは外国人だけではないので、ふりがなを振って読めるようにする方法もある。長い日本語を読みにくい人に読んでもらうのであれば、ボリュームを少なくしてほしい。
- ひらがなや色々な言語で奨学金について書くなどすれば見やすくなると思う。日本語がそこまで分からない人は、スマートフォンで自分で調べることが難しいのではないかな。家にチラシが配られたら見ると思う。
- 平仮名だけのチラシ（外国人向け）など、目的に合うようにいくつかの種類のチラシを作れると良い。
- デジタルは便利だけど、使っていない人からしたら全く意味がない。デジタルを使っていない人のためにアナログ版を用意すると良いと思う。分厚くなったり文字が多くなったりするのは仕方がない。アナログ版を学校に置いておき、生活が少し苦しい家庭の生徒や保護者に対して、三者面談などで先生が説明する機会を持つことが必要だと思う。
- 生活が少し苦しい人は自分の学校にもいる。生活が苦しいことは、保護者だけでなく、こどもも分かっていると感じている。制度については教えてもらわないと知らないことが多い。学校で教えてくれたら、生徒自身から保護者に伝えると思う。地域で対応が分かれないうにしたら良いと思う。
- 学校に来ることができない人に対しては、「少しでも気になることがあったら電話をください」「来てください」と伝えると良いと思う。
- チラシのレイアウトについては、表面は分かりやすいと感じる。裏面は、数字を赤色などの強調できる色にすることで制度の対象がぱっと分かるようになると思う。
- 明るい色やイラストを使ったら、強調できると思う。色は今のチラシのままで良いと思う。
- イラストや色の使い分けをしっかりとったほうがよいと思った。今のチラシは色の使い分けは分かりやすいが、「大学・専門学校など」の部分の記載が目立っている印象があるので、その部分の色を薄くしたほうが良いと思う。
- 文字の量については、表面はよいと思ったが、裏側は多い。減らせる部分はあると思う。表面の「大学・専門学校など」のところは白い枠が1つになっているので、「高校」と「小学校・中学校」とあわせて2つにしたほうが統一感がある。言葉遣いは分かりやすいが、こどもが読んだら分からないものもあるので、誰向けのチラシなのかによって言葉遣いを変えたほうがよいと思う。

- レイアウトや言葉遣いは良いと思うが、裏面は数字がいっぱいあるのでぱっと見た時に分かりづらいと思った。
- 話し言葉で書いているので分かりやすいと思った。裏面は文字を少なくしたらよいと思う。ただ、いま書いてある情報は必要な情報だとも思う。
- 支援が必要な人は制度についてちゃんと調べと思うので、チラシに細かく書く必要はないと思う。支援が必要な人から質問を受けたら説明すれば良いと思う。
- 自分の気になっている分野のチラシを選べるようにすると良いと思う。たとえば、中学校には高校向けのチラシを置いたら良い。そうすればスペースが空いて読みやすいと思う。
- いまのチラシに書かれているのは最低限の情報だとは思う。QA 形式にすれば文字量も減って見やすくなると思う。チラシでは軽く説明して「詳しくはこちら」とすると良いと思う。

以上

【オンライン】3 班（高校生年代 3 名）

1. みなさんがこれまでを振り返って、これまで説明した支援のうち、聞いたことがあるものや知っていたものはありますか？また、その支援について何を通じて知りましたか？

- 通信制高校に在籍している。LINE のグループのようなものがあり、お知らせが通知される。高等学校就学支援金制度の申し込みお知らせが来た。
- 高等学校就学支援金制度については前から知っている。自分の通っている学校には学校、地域、家庭を繋ぐ連絡システムのアプリがあり、年度初めに保護者と生徒向けに発信されている。
- 高等学校就学支援金は知っている。学校のパンフレットに載っていた。
- 小中学校時点では支援金や奨学金の申請用紙を配布されるため、見たことがある。
- 中学校の場合は、修学旅行や給食の補助金はあった。
- 中学校のとき、就学援助制度の案内をもらったことがある。

2. これから、保護者の方や、中学生～大学生のみなさんに支援のことを知ってもらうためには、どのような方法・タイミングでお知らせするのがよいと思いますか？

○支援があることをいつまでに知っておきたい（または知っておきたかった）ですか？

- 余裕を持って、支援を受ける前年度の 1 月・2 月までに申請のお知らせをくれるとありがたい。
- 用紙が煩雑であるため、申請締め切りの 2、3 か月前に周知すると良い。
- 小学校、中学校、高校は申請が遅くなることで支援の内容が悪くなることはないと思われる。例えば自分の住んでいる都道府県では授業料が 1,000 円分割引される制度があったが、保護者に周知されたのは 6 月だった。ただし、6 月に対して遅いと感じることはなく、追加で申請できた。
- 大学進学支援について、自分は現在高校 2 年生だが、どのような支援があるかを知らない。大学進学にはお金がかかるため、金銭的な理由で大学進学をあきらめる人もいる。大学進学をあきらめないために、高校 2 年生の 12 月には大学進学支援制度について知っておきたいと思う。
- 自分は高校 3 年生である。大学進学における支援について日本学生支援機構の奨学金の案内があったのは今年の 4、5 月で、一時締切が 1 か月後の 6、7 月であった。友達は一次締切への応募が間に合わず、二次締切で応募していた。高校から大学のように大きな変化がある場合には、前もって周知しておいてほしい。
- 4、5 月は学校行事がある場合もある。また支援制度への申込については保護者とのやり取りが必要であるが、時間の都合をつけるのが難しく、周知から締切が 1 か月だと足りない。余裕をもって周知してほしい。
- もっと早く周知してほしい。6 月から AO 入試が始めるため、6 月から大学支援についての周知を始める余裕が持てると思う。

○高校の就学支援金について情報が届いた時期はちょうどよかったですか？

- 高校に入学する際のパンフレットに基本的な支援内容が書いてあり、十分だと感じた。一方、就学支援金は自分の口座に直接受け取れるシステムではないため、詳しく周知をする必要はないとも感じる。
- 中学から高校に変わることは高校から大学に変わることに同じ扱いになると認識している。高校受験は8月から始まるため、7、8月から周知すると良い。また、中学生は内容に関わらずプリントを捨てる人が一定数いるため、生徒に就学支援についての周知プリントを配布するよりは保護者にメールで周知する方がよい。
- 自分の学校では、高校1年生から2年生に進級する際、封筒に必要な書類一式を入れて配布される。周知から申込みまでの期間に問題があると思ったことはない。書類がまとめて配布される方式が良かったのだと思う。
- 中学卒業後の進路を考え始めるのは中学3年生に進級してすぐである。高等学校就学支援金の目的として、「保護者は公立高校に行ってほしいと思っているが、生徒自身は私立高校に行きたいと思っている家庭」を無くすことが挙げられる。高等学校就学支援金制度を中学生全員に周知する必要はないが、高校進学に向けて金銭的に困っている家庭や、高校授業料無償化対象にギリギリあてはまらない家庭の保護者に周知していく必要がある。
- 中学2、3年生で高校受験を考え始める。私立高校進学という選択肢を狭めないために、低所得者層に対する周知を早めにする必要がある。

○どのような方法・タイミングで知らせるとよいでしょうか？

- 保護者と生徒の両方に情報発信するアプリがある。奨学金がもらえるタイミングで、支援が必要だと思われる可能性のある家庭に直接メールや文書で周知すれば、生徒が周知のプリントを捨ててしまう可能性は減らせるのではないかと。周知したメールや文書の保護者による開封率は、先生の方で確認できる。
- プリントにはお茶をこぼす生徒もいる。紙媒体で申請書類を配布する場合は、申請書類の予備が欲しい。
- いけんひろば当日配布資料のP.24に「方法：SNSで」とあるが、バナー広告やXの広告という形での周知は、対象を絞って実施し、大学進学を諦める人が出ることを防げると良い。
- 10代はYouTubeなどで動画広告ブロッカーを用いている場合が多いため、YouTubeでの広告はおすすしめない。保護者世代についても、YouTubeなどのSNSを利用しないイメージがあるため、動画広告を見る可能性は低い。
- 学校に行っていない16-18歳の同年代の内、中卒で高校に進学していない人は、若者の支援センターに集まる。支援機関に周知資料を置くと良い。同年代は公民館には行かない。引きこもりの人の家庭の場合は、該当者の家のポストに周知資料を入れると良いのではないかと。
- 直接各家庭に情報を提供すればよい。また、自分の居住地は回覧板の回りが良い地域であるため、回覧板に周知資料を挟めば、地域間で話題にのぼり、周りから知ることができると思う。
- 中学校で不登校の生徒も、高校には進学する。高校に進学できない不登校児の場合も、金銭面以外の理由であることが多いため、金銭面以外の不登校対策をするべきである。

- 金銭面で高校進学を諦める人をゼロにするべきである。現在、高校は公立、私立ともに授業料が基本的に無償化されている点を周知していくことが大切だと思う。授業料が無償化されているが、金銭的理由で高校進学を諦めている人の場合は、自分が働かないと生活していくためのお金がないという家庭の生徒であると思われる。そのような人たちに対しては、授業料無償化だけでなく、幅広い金銭的支援が必要だと思う。
- 連絡網を伝って情報が回ってくる場合もあるため、連絡網を再構築してはどうか。
- 若者が集まっている場所に関する具体的な案だが、中学生がよく行くのはゲームセンター、カラオケ、公園、図書館である。
- 自分が住んでいる地域に大きなショッピングセンターはない。自分の高校には遠距離通学者が多く、大きい駅を使うことが多いので、デジタルサイネージを利用して、様々な世代に連携的に情報を周知することが大事である。
 - 同意見である。金銭面で大学進学を諦める人達に対する支援の周知については、ショッピングモールなど幅広くわかりやすいところや、学校などで周知をするのが良いと思う。金銭面で高校進学を諦める人たちに対しては、該当者が働いている場合には、勤務先で支援やリスクリングの周知をすると良いと思う。働いていない場合は、市役所や支援センターでリスクリングの周知をすると良いと思う。

3. 小学校～大学卒業までの支援を、1枚でわかるようにしたチラシを作ろうと考えています。チラシの案を見ながら、どのように変えたらわかりやすくなるか、教えてください。

- 保護者に対して配る場合、高校の授業料なら「世帯年収 590 万円まで高校授業料無償化」、大学進学の支援なら、階段状に支援制度があることなどを明記するように、もっと表面に具体的に書くのが良いと思う。チラシ表面に書いている内容が簡単すぎて、かえって支援内容が分かりにくくなっている。
- チラシ表面の矢印は良いと思う。裏面については、子育てに忙しい小中学生の保護者は長い文章を読まないと思う。こどもに配ってもよく分からずにチラシを捨ててしまうと思われる。表面に記載した方がわかりやすい。
- 裏面の文章量が多い。世代別にチラシを配布し、必要な情報のみを入れると良い。例えば、小中学生の保護者については、高等学校就学支援金までの情報を入れる。表面の見出しについては、「教育にかかるお金がもらえます」と書くよりも、実際にもらえる金額を記載した方がわかりやすい。保護者の申請意欲を増すことができると思う。
- 「最大〇〇円もらえます」と金額を書いた方が、チラシとしてインパクトがある。たくさんのお金がもらえるとわかるチラシだと、児童・生徒はプリントを捨てない。支援について記載されている専用のサイトの二次元コードを表面にも載せた方がよい。
- 大学進学に係る支援金の情報はチラシに書ききれないと思う。裏面については、支援金を受け取る方法を具体的に書いてほしい。学校に申請をするのか、申請をしなくても支援金を受けとれるのか、といったところを記載した方がよい。
- 締切について、各支援制度の申請締切日は毎年変わる可能性があるため、締切を明示してしまうと毎年チラシを作り直す必要がある。なので、締切は具体的に明示する必要はないと思う。

- ポスターにするというやり方ならば、「小学校から大学まで教育にかかるお金がもらえます！」という題名で、駅などの多くの人が通る場所に貼ると、効果があると思う。支援制度は長いスパンをかけて変わっていくと思われるので、学校においても、ポスターとして立てかけておく方が、チラシを生徒に直接配布するよりも周知につながると思う。
- チラシの内容に興味を持てるかという観点に関連した意見だが、多くの文字量があるプリントは生徒も保護者も読みたがらない。チラシに記載されている情報を動画にして、表面に載せた二次元コードから動画を見ることができる状態にすれば良い。動画であれば見る人が増えると思う。
- 文字が多いと、読む人が減ってしまう気がする。
- 文字を読みたくないという意見に対して、全員が対象となり、自動的にお金がもらえる情報については文字を読みたくないと思う。一方、給食費や高校授業料など地域ごとに無償かどうかが異なる支援については地図で一元化して示し、どのような仕組みかを説明すると良い。ただし、地域間格差を助長しないために、慎重に表示する必要はあると思う。
 - 地図に一元化して示されると、市民からの反発が起こると思うので、一元化表示はしない方が良いと思う。

○このチラシのような情報をもらうとき、紙媒体・データのどちらでもらっていますか？個人的には、紙とデータのどちらでもらうのが嬉しいですか？

- 今、就学支援金の情報は紙媒体でもらっている。月々の授業料はデータ化されているが、申請が必要な書類は紙媒体でもらっている。申請が必要な書類については、申請を忘れる人を防ぐためにも紙でもらうことは必要だと思う。大学進学の手続きについても、証明書については紙媒体でもらう必要があると思う。
- チラシに関して、情報が全部まとまっているホームページがあれば、紙媒体よりもホームページの方が見やすいと思う。
- 保護者と生徒の両方に情報発信するアプリでスマートフォンに PDF ファイルが添付され、見ることになっている。重要書類については、紙媒体に渡されると同時に、保護者に「生徒にこのような書類を渡しているため保護者の方もご確認ください」と連絡が届く。紙媒体や電子媒体だけでなく、色々な媒体を使って、ハイブリット式で確実に情報を周知する必要がある。
- 自分は高校受験の願書に飲み物をこぼしたり、記入を失敗したりことがある。中学生はプリントを捨ててしまうことが多いことも踏まえると、ハイブリッド方式が良い。

○言葉遣いについて、どのように感じますか？

- 表面について、「お金」が強調されているのでわかりやすい。虫眼鏡のマークの「忘れずに手続きをしてください。」「見ることができます」についても「！」を付ける方がよい。「手続きを忘れずに！」「見ることができます！」のような、堅苦しくない感じで書いてほしい。
- 「裏面の二次元コード」とあるが、紙を裏返す手間が面倒なため、表面にも二次元コードを載せてほしい。

○教育にかかるお金について保護者と話しますか？また、教育にかかるお金について保護者と話しやすい環

境ですか？

- 数年前は教育系アプリがなかったため、プリントをもらっても保護者と話す時間がなく、話す機会がなかった。アプリができてから、保護者に PDF ファイルを見ておいてほしいと伝え、後から分からない点は保護者も質問してくれるようになった。チラシに関しても PDF のリンクを QR などで貼り、こどもがチラシをもらった時に、保護者に QR コードをチャットで送信して「見ておいてほしい」と連絡すれば、教育にかかるお金について話しやすくなるのではないかな。
- 生徒がプリントを失くしてしまう問題は、紙媒体の配布から PDF での共有に変えることで解決する。一方、PDF の共有では、保護者と生徒の話し合いにつながらないと思う。チラシについても、支援金の申請に関しては保護者が申請をしてくれると思うため、あまり話し合いにはつながらない気がする。

以上

【オンライン】4 班（大学生・社会人年代 4 名）

1. みなさんがこれまでを振り返って、これまで説明した支援のうち、聞いたことがあるものや知っていたものはありますか？また、その支援について何を通じて知りましたか？

- 教育実習先の高校で、生徒に向けて学費の援助があることを周知していた。また、大学入学時に学費を支援するという大学独自の取組に関するチラシもホームルームで共有していた。国の取組があることは初めて知った。
- 今利用している日本学生支援機構の奨学金は、高校生の頃、先生に早く申し込むように勧められて知った。そのとき、給付奨学金を受けるためには評定平均や家庭の経済状況などの条件を満たす必要があるので、勉強を頑張るように伝えられた。また、自身が通っていた附属高校から大学に進学すると通常より学費が安くなるという制度は噂で知った。
- 日本学生支援機構の奨学金は高校 1 年生の頃、壁にポスターが貼ってあったのを見て知った。大学進学してからは、大学が独自に費用を負担する制度があったが、申し込み期間がタイトだった。また、民間が実施している奨学金制度もあったかと思う。
- 大学入学の頃、大学生にお金が支援される制度を聞いたことがある。おそらく日本学生支援機構が実施している奨学金だったかと思う。

2. これから、保護者の方や、中学生～大学生のみなさんに支援のことを知ってもらうためには、どのような方法・タイミングでお知らせするのがよいと思いますか？

- 高校や大学受験に向けて勉強していた頃は、奨学金のことを考える余裕がなかったので、入学のタイミングで知らせてくれたのは良かった。その時に知らされた奨学金は、支給型と貸与型の 2 種類があり、それぞれ成績などの要件があったかと思う。
- 高校の進路選択のタイミングや入学のタイミングで知らせてもらって最も情報が頭に入ってきたと思う。

3. 小学校～大学卒業までの支援を、1 枚でわかるようにしたチラシを作ろうと考えています。チラシの案を見ながら、どのように変えたらわかりやすくなるか、教えてください。

○このチラシを見て、興味を持ちますか？

- そもそも自分は奨学金を利用していないのであまり目に留まらないかもしれない。親から資料を持って帰るように言われたらチラシを貰って帰るかもしれない。
- 高校生までは保護者がお金を管理しているので、学費が不足しているかどうかも知らなかった。保護者の目には留まるかもしれないが、自分はあまり危機感を持たないかもしれない。
- 私立の高校に通っていたので、「授業料や教科書、制服にたくさんのお金がかかる」とよく言われていた。そのため、高校生の頃の自分であれば、このチラシを持って帰って親に渡すと思う。い経済的な事情を家庭内でどれくらい話すかによって、このチラシを親に渡すかどうかが変わると思う。

- 高校の頃、学費の支援に関するチラシをもらった記憶があるので、このチラシも確認すると思う。

○タイトルは分かりやすいと思いますか？

- 分かりやすいと思う。
- 保護者向けのメッセージだと感じた。こどもにメッセージを伝えたいのであれば、「あなたの教育にかかるお金について応援します。」とした方が良いと思う。
- 大学生は比較的一人暮らしが多いので、大学からの通知は学生本人にのみ届くことが多い。小学生に渡すチラシの場合、チラシの読み手は親を想定した方がいい。誰を読み手とするのかによって、言葉の表現やフォントサイズなどが変わってくると思う。とはいえ、親であれば全員もれなく漢字を読むことができると思われる。

○特に、生活が苦しい方、文字が多いと忙しくて読まなかった方、難しい日本語が読みにくい方や、支援があることを調べることが難しい方々に、届けるにはどうしたらよいでしょうか？

- もし、このチラシが教室の後ろに掲示されたとしても、周りの目があるので見づらいと思う。例えば、こども・若者の居場所に関するチラシを見ているだけで噂が立ってしまう。チラシを見ていると周りから「あの人はお金に関して困っているのかな」と思われる可能性があることを踏まえると、チラシは一人一枚配った方がいい。また、学校配るのであれば、コストがかさまないよう白黒印刷にしても見やすいようにすると良いと思う。
- 「申請が必要です」と書いていると面倒に感じてしまう。自分たちがこどもの頃と違い、保護者宛てのお知らせをメールなどで配信している学校も多いと思う。経済状況や家庭の事情によってはメールを確認することができないこともあるかもしれないため、小学生の場合は、学校から親に直接チラシを配布したほうが早く届くのではないかと感じた。

○チラシ案（オモテ面）について、どのように感じますか。

- イラストが多く、文字量は少なめだと感じた。よく言えばシンプルで見やすいが、悪く言えば少し情報が少ないと思う。また、「大学生・専門学校など」の「②日本学生支援機構貸与型奨学金」以外の制度は返済する必要がないのかが気になった。
- タイトルは「お金がもらえる」となっている一方で、「大学生・専門学校など」の「②日本学生支援機構貸与型奨学金」はお金を借りるものであることが気になった。また、給付型奨学金についても紹介したほうが良いと思う。
- 詳しい情報を知らうと二次元コードを読み込んだとしても、そのリンク先の内容が難しいと内容の確認を諦めると思う。リンク先の案内に、「詳しいことを知りたい人はこちら」というように、お問い合わせ先の案内があると良いと思う。
- 「高校の授業料」や「高校の制服や教材」の「高校の」は、高校の欄にある内容なので、わざわざ書く必要はないと思う。また、イラストはもう少し大きくした方が分かりやすい。特に、「大学・専門学校など」の欄のイラストは分かりづらい。

- 「大学・専門学校など」の右側のイラストについて、家に小さく財布が付いているようなイラストにすると生活費であることが伝わりやすいと思う。
- イラストについて、電気の右隣に描かれているイラストが何かわからない。携帯のイラストにしたほうが生活費であることが連想しやすいと思う。

○チラシ案（裏面）について、どのように感じますか。

- 文字量が多いと感じる。また、全ての文字が黒色で同じ大きさなので、大事な箇所は強調したほうが良い。特に自分が制度の対象かどうか気になるので、分かりやすくしてほしい。
- 問い合わせ先の文字の色を変えることで、学校以外にしっかりと相談できる場所があることが伝わりやすくなると思う。
- 文字量が多いと感じる。年収などの条件で分岐させたフローチャートなどの図で示し、それぞれが対象となる制度が簡単に分かるようにできたら良いと思う。
- 文字量が多い。チラシを見る側としては、事業名はそこまで重要な情報ではないかもしれないため記載しなくても良い気がする。一方で制度を受けられる対象は大事な情報だと思う。
- 二次元コードが小さいので、2 倍くらいの大きさにした方が良い。また、Web でチラシを配布する場合は、二次元コードではなく URL リンクのほうが良い。

○チラシの作り分けについて、どのように感じますか。

- ライフプランを考えるという意味では、1 枚の紙に小学校から大学までの情報をまとめるのはありかもしれない。ただし、各世代に関連する情報を充実させるために世代ごとに専用のチラシをつくってもいいのではないかな。
 - 世代ごとに作成することで、空白が増えて読みやすくなるかもしれない。また、全ての情報がまとまったサイトなどに遷移できるようになっていると良い。
- メールでチラシを配布するのであれば、自分の世代が対象となる情報が載っているチラシの方が良い。また、このチラシ案のように、すべての世代の情報が掲載されているものも欲しい。自分より上の世代にも支援があることを知ることで、進学を諦めずに済む人が増えるかもしれない。
- 「小学生はこちら」「保護者はこちら」というように、ターゲットごとに必要な情報をまとめて案内できると良いと思う。また、電子媒体で配布する場合は、ふりがなのオン／オフを切り替えられると良いかもしれない。
 - 何らかの基準に則って漢字にふりがなを振り、「難しい漢字にはふりがなを振っています」と記載すると良いと思う。
- 小学校から大学までの全体像が把握できるチラシと、各世代の情報に特化したチラシの両方があると良いと思う。「自分は大学に行けない」と進学を諦めているような子に対しては、全体像が把握できるチラシを見てもらえると良いと思う。
- 親にチラシを配布する場合は、全体像が把握できるチラシを渡すと、将来的にかかる教育費の見込みがつくので良いと思う。また、自分の親族のように家庭の経済事情によって大学などへの進学を諦めている

人もいる。そのため、「大学や専門学校でも支援制度があるので、夢をあきらめないで！」というようなメッセージがあると良い。

○そのほか、チラシについて感じたことはありますか。

- 「高校」に描かれている制服のイラストについて、女性がスラックスを履いているようなイラストを追加したほうが良いと思う。
- 「小学校・中学校」に描かれているランドセルの色について、女子は赤色で男子が黒色になっているのはステレオタイプであると感じる。また、男子中学生が学ランを着用しているのも今の時代に合っていないかもしれない。

以上

【オンライン】5 班（社会人年代 3 名）

1. みなさんがこれまでを振り返って、これまで説明した支援のうち、聞いたことがあるものや知っていたものはありますか？また、その支援について何を通じて知りましたか？

- こども関係の仕事をしている都合上、そういった制度はある程度は把握している。初めて知ったものは特にない。
- 自分の場合は大学に行くお金を自ら賄ったため、大学に関する支援は知っていた。小学校や中学校、高校に関する支援はテーマ説明資料を見て初めて知った。もしも自分が親になった場合、小学校や中学校、高校に関する支援について、各学校に入学する 1 ～ 2 年前くらいには知りたいと感じる。
- 大学の奨学金が制度として存在するくらいのことしか知らなかった。子育てに力を入れている地域では様々な支援があり、若者の人口が増えていると聞くので、自分が子育てをする時には調べてみたいと思っている。こどもを持つか持たないかの判断をする時に支援制度のことを知っていると参考になりそうである。また、こういった支援がどれくらいの期間確約されるものなのかが気になっている。

2. これから、保護者の方や、中学生～大学生のみなさんに支援のことを知ってもらうためには、どのような方法・タイミングでお知らせするのがよいと思いますか？

- 保護者の方に知ってもらうという意味では、学校が保護者を集める機会（保護者会など）で周知して欲しい。また、保護者がよく行くような公共の場所（病院・駅など）でも周知できると良いと思った。学校を通してアクセスする支援もあると思うので、学校から周知されると支援にアクセスしやすくなるのではないかな。ただし学校の教員は多忙であるため、学校が窓口になることが適切なかどうかは疑問も残る。
- 支援にアクセスするには、学校から何か配られたり、自分から学校に問い合わせたりする方法が主流だと思うが、支援を必要とする家庭（ひとり親家庭など）は自ら支援にアクセスすることが難しいのではないかな。SNS を使う人が多いと思うので、国が管理する SNS アカウント（Instagram や YouTube など）で年齢に応じた支援を知ることができるようにすると良いと思う。支援の申込方法は「書類を記入して学校に渡して…」というプロセスが多いと思うが、どれくらい時間がかかるかが見えづらいことから、結局申込に至らなかったという人がいると考えられる。もっと気軽に申込できるよう、インターネットから申込ができると良いのではないかな。隙間時間で申込ができる仕組みがあると良いと思う。
- こどもたちとくに支援をする立場であるため、自分で情報を集めることがある。支援者側としては、なるべく早くこどもたちに周知していきたいと考えている。ここ最近で情報を調べているなかで「どのサイトが一番良いのか。どのサイトに一番多くの情報が載っているのか。」ということが気になった。教育にかかる支援の情報がまとまっている総合的な WEB サイトがない。そのため、各家庭に情報が届くかどうかは、学校の広報や保護者個人の情報収集力に依存している部分が大いと感じる。
- 勉強を頑張っている人がいそうな場所（図書館や塾）に奨学金の案内を置いたり、掲示したりすると良いと思った。勉強していてもお金の都合で進学を諦める人がいると思う。

- チラシには「制服や学校用品に使うことができる支援もある」と記載されていた。制服や学用品の購入に間に合うようなタイミングで支援制度のことを知ることができると良いと思う。

○中学生や高校生が自分自身のためにある支援を知るためには、どのような方法・ツールがあると良いですか？

- 学校でプリントを配るのが良いと思う。それに加え、SNS などで情報発信をしても良いと思う。色々な制度について調べてみたが制度によっては所得制限などがあるため、所得などの情報について子ども側がどれくらい把握できるのが難しいと思った。
- 学校でプリントを配るのはとても良い方法だと思う。また、スマートフォンを持っている子も増えてきているため、そのプリントに「このサイトを見れば制度のことが全部分かる」というサイト（ポータルサイト）の二次元コードなどを載せられると良いと思う。
- 所得制限などがあると奨学金などを利用するハードルが高くなると思う。貸与型は返済が必要というハードルがあり、それゆえに借りることができない人がある。学校側が貸与型の奨学金を推奨するのはいいかなものかなと思う。できる限りちよつとというところは正直ある。貸与型しか選択肢がない人の場合、大学に行くハードルが高くなると思う。

3. 小学校～大学卒業までの支援を、1 枚でわかるようにしたチラシを作ろうと考えています。チラシの案を見ながら、どのように変えたらわかりやすくなるか、教えてください。

- このチラシには申込期限が書いていない。チラシを見たにもかかわらず申込が間に合わないという結果になってしまうと悲しいと思う。
- チラシを見た時に「自分がどの支援を受けることができるのか結局分からない」という印象を受けた。年収が階段のようなイラストで示されており、「ここまでの人は～の支援が受けられる」ということが視覚的に分かりやすくなっていると良いと思う。
 - 裏表 1 枚に収まらないかもしれないが、年収をグラフのように示して「この年収ラインだとこの支援」ということを小学校・中学校・高校・大学それぞれについて記載すると分かりやすいのではないかな。そのように示すことで、子どもが家にチラシを持って帰って「うちはどのラインなの？」と会話するきっかけにもなると思う。
 - 自分たちがどの所得ラインなのかが分かる資料があると分かりやすくなると思う。
- 表面のデザインは好きだと思った。分かりやすいシンプルだと思う。しかし、「教育にかかるお金がもらえます！」と書いてあるにも関わらず裏面で貸与型の紹介がされていることが引っかかった。
- チラシに色々詰め込むよりもポータルサイトを案内したほうが見やすくとまとまると思う。

○こういった言葉あれば、子どもたち・保護者に届くと思いますか？

- 「この支援制度を使うかどうかで支出額がこれくらい変わります」と書いてあると自分だったら興味を持つと思う。

- 最初のタイトル「教育にかかるお金がもらえます！」は良いと思う。しかし2ページ目の注意書き（※の部分）を読むと裏切られた気持ちになる。また、小学校の欄に掲載されている1個目の二次元コードを読み取ったら、その先でさらに別の二次元コードを読み込むように誘導された。このような入れ子構造になっていると読む気がなくなる。また、全体的に分かりづらい印象がある。
 - 自分もタイトルは良いと思う。
- タイトルも「お金がもらえます」という文言はとてもインパクトがあるが、貸与型奨学金が紹介されていることを踏まえると「支援が受けられます」のほうが納得して使うことができる人が増えるのではないかな。
- しむ）奨学金の制度の名前が沢山書いてあると思うが、他にどのような制度があると良いかな？
- 奨学金の制度名が掲載されていること自体は結構好き。自分は支援制度自体を知らなかったが、制度の正式名称が分かると自分で検索できるのでありがたい。いくつかの制度について自分で調べたところ、情報が載っていたサイトが法律っぽい堅い書き方であったり、説明が分かりにくかったりしたため、ポータルサイトのような分かりやすいものが欲しいと思った。
- 制度に関する書きぶりは分かりやすく、見やすいと思う。しかし、このチラシに書かれているものしか知ることができない点が課題だと感じる。国以外（企業や自治体、財団など）が創っている奨学金制度もあると思う。国以外の情報について調べるのはこどもや保護者にとっては大変だが、全国の奨学金を一括で調べることができるサイトがあったりもするので「その他の奨学金はこちら」と書いてリンクを載せても良いと思う。自分が知っているのは「ガクシー¹」というサイトだったが、公的なサイトを作っても良いと思う。
 - ガクシー以外には、あしなが育英会が運営している「Canpass²」というサイトや日本学生支援機構のサイトもある。
 - 「ガクシー」はとても良いと思う。ポータルサイトにあって欲しい要素が入っているため、こういったサイトを作ってもらいたい。チラシの内容は表面のみで良いと思う。もらえる金額があると現実感が出るのであったほうが良いと思う。チラシに書くことができる内容は文字数的に限られると思うので、チラシを見てからポータルサイトを使って自分で検索できるとすごく良いと思う。チラシについては、あまり興味がない状態では裏面は読まないと思う。少し分量を減らしても良いと感じるくらいである。

○皆さんが学生の頃、教育にかかるお金の支援についてどのように知りましたか？また、調べていましたか？

- 大学入学後に奨学金に関する説明会があり、そこで初めて知った。それまでは知らなかった。
- 自分の大学では説明会はなかった。自分が使うことができる奨学金がないかを大学の事務局に聞いたり、がむしゃらにWEB検索をしたりして奨学金を探したため、多くの時間と労力がかかった。そして、自分が「これだ！」と思った奨学金があったが、既に応募期限が切れていた。
- 奨学金を調べる時には評定（成績）の条件があるかどうかを最初に確認する。基本的には評定（成績）が良い人が対象になっている奨学金が多いが、自分は成績があまり良い成績ではなかったため申込

¹ <https://gaxi.jp/>

² <https://canpass.ashinaga.org/>

を諦めることが多かった。奨学金の制度のことを早く知っていれば成績を上げる努力をしたかもしれないが、進路が固まっていない場合は難しさがあると思う。

○特に、生活が苦しい方、文字が多いと忙しくて読まなかった方、難しい日本語が読みにくい方や、支援があることを調べるのが難しい方々に、届けるにはどうしたらよいでしょうか？

- 外国の方に向けたものは大抵ふりがなが振ってあると思う。このチラシにはそれがないと感じた。また、裏面の「大学・専門学校など」に書かれている制度①は多子世帯であれば所得制限がない（令和7年度以降）とのことである。簡単な条件のものを強調すると良いのではないか。所得制限や住んでいる場所などは一旦置いておいて、まずは分かりやすい部分を強調してはどうかと感じた。
- 英語バージョンを作ってみるのも一案だと思う。周知の仕方になると話は変わると思うが、都心部だと電車内のテレビで広告が流れている。その広告を流し、英訳を少しつけてみるといった方法もある。広告には全部を載せる必要はないので、大事な部分（学校に行くための支援としてこういうものがあります）を簡単に伝えられると良いと思う。動いている広告は目に入りやすいと思う。
- 奨学金などの話を学校の授業でしたり、ちょっとした説明会などを開いたりしても良いかもしれないと思う。きっかけになることが何か1つでもあれば良いと思う。

以上

参加者アンケートで寄せられた意見

- 日本語が第一言語でない人は、今回の支援のチラシを Google 翻訳したら内容を理解できそうなのか聞きたい。欠席や不登校だった時にチラシが配られて手に届かない人もいるかもしれないから、ローソンの店内アナウンスで「夢を応援基金」という奨学金を紹介していて、耳で聴いて就学支援を知ってもらうのも良いと思った。夕方以降の学生がコンビニに行く時間に流せたら効果があると思った。
- 関心がない人にはキャッチーなタイトルで効果があるかもしれないが、字を読むことが難しい、忙しいから関心が持てないタイプの人には効果の薄いチラシだと思った。ただし、それは両立が難しいという意味でこのチラシ自体はよいと思う。・結局どの支援が受けられるか自分で判断するしかない、というところがハードルが高いと思うので、必要事項を記入(イメージはふるさと納税の額計算サイト)すれば受給可能な支援が列挙されるような診断サイトとそのサイトへの導線をチラシとして広報するような仕組みがほしいと思った。

以上